

# コイノニア



2月の礼拝テーマは「隣人を愛する」となっています。隣人を愛することは、イエス・キリストの教えでもあり、またキリスト教が大切にしてきたものの1つです。今月の聖句はルカによる福音書10章の言葉ですが、ここにはイエスが語ったたとえ話が記されています。

「彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」

ルカによる福音書10:27

追いはぎに襲われ道の真ん中に倒れている人がいました。ユダヤ教の祭司とレビ人(下級祭司)は、傷ついた人に気がついたのですが、見て見ぬふりをして道の向こう側を通って行ってしまいました。ところが旅をしていたサマリア人は、傷ついた人の側まで行って手当てし、自分のロバに乗せて一緒に宿屋まで行きました。宿屋の主人にお金を渡し、助けてくれるように頼みます。そしてお金が足りなかったらまた働いて稼いだお金を持ってくるというのです。イエスは、たとえ話を聞いていた人々に「誰が傷ついた人の隣人になったと思うか？」と尋ねます。みなさんも、祭司・レビ人・サマリア人の中で、誰の行為が正しいと思うでしょうか？

私はあるときまで、「このサマリア人のようにならなければいけない！」とばかり思っていました。確かに、サマリア人の行為は立派です。でも私が同志社大学の神学部で聖書を学んでいたとき、先生が次のように優しく教えてくれました。

「イエスこそ、あなたの隣人となって助けてくださるお方なのですよ。」

イエスは決して私たちを見捨てません。そのイエスの愛に私たちはいつもつつまれて生きているのです。「隣人を愛する」とき、そこには「隣人として愛されている自分があるんだ！」ということを忘れないでいてくださいね！

## 聖書・キリスト教の漢字～これなんて読むの？～ #10 「憐れみ」

キリスト教では、「憐れみ(あわ-れみ)」「憐れむ」という言葉がよく出てきます。今月の聖句が書かれているルカによる福音書10章の中にも、サマリア人が傷ついた人に出会ったとき、「その人を見て憐れに思った」と記されています。「憐れみ」を表すギリシア語には「生け贄を献げた後その内蔵を食べる」という意味がありますが、内蔵が感情の座と見なされていたところから心、そして愛という意味へ発展していったようです。生け贄の動物とはいえ、内臓を食べる(食べられる)ことを想像するだけで、内臓をギュッと捕まれてイタタタタッ！というようなイメージがわきませんか？「憐れむ」とはそのように「自分自身も痛む」「誰かのことを思って胸を痛める」ということなのです。隣人を愛することは、ときに自分も痛む。それほどに誰かのことを思い、他者の痛みを想像できる優しい人になりたいものですね。



## 2月の予定 月間聖句

「彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」(ルカによる福音書10:27)

## 月間テーマ

「隣人を愛する」

2月は特別礼拝はありません。

松山学院ものがたり #10 同志社で学んだ先輩たち<3> 二宮源兵 にのみやげんべい



1912(大正元)年、田渡村(現・内子町)から中学校入学のために松山へ出てきた二宮源平は、夜学校の寄宿舎(寮)に預けられ、約3年間、西村清雄夫妻と生活を共にした。週1回の聖書講義や寄宿生の祈禱会には必ず出席し、日曜日には松山教会の日曜学校(子どものための礼拝)に通った。昼間は公立の学校で勉強したが、寄宿舎生活の中で西村夫妻からキリスト教教育を受けた。中学3年生のとき、寄宿舎に重松征太郎が入ってきた。(1月号参照)西村夫妻と生活するうちに重松の生き方は変わり、洗礼(クリスチャンになること)を受けたことから、二宮もクリスマスに洗礼を受けた。この重松に「一緒に同志社へ行こう」と誘われ進学を決意した。1921(大正10)年、同志社神学校を卒業して夜学校の教師となった。スポーツマンでもあった二宮は夜学校の生徒にテニスを指導したり、休日には山登りやハイキングに連れて行った。また野球部をまとめ、ユニフォームを作って他校と試合できるまでに育てたのも二宮である。1923(大正12)年、留学の手続きが整いアメリカへ出発。オベリン大学とシカゴ大学で宗教哲学と倫理学を学んだ後、帰国して同志社大学の教授となった。その後、神戸女学院中・高部長として教育活動に従事。1961(昭和36)年、松山東雲学園長となり、翌年9月から12年間本校の第五代理理事長も歴任した。

## ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆ 夜学校時代の卒業生と教会で

本校と深い関わりにある「松山古町教会」には、夜学校時代、つまり初代校長西村清雄先生の生徒として学校生活を送られた方がいらっしゃいます。1948(昭和23)年に入学した門屋聖さん(1931年生まれで今年91歳を迎えられます)。なんと本校1年生で16歳の武村青空くん(1-3)とは75歳差です!!もう一人の方は本校評議員の細川年弘さん。久しぶりに松学生が礼拝出席してくれたことを大変喜んでくださいました。松学ファミリーでハイ、ポーズ!!



門屋さんと武村くん 大西大吾くん(2-1)も笑顔で! 評議員の細川さんも一緒に!